



DBKだより

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2014年7月16日 第13号

発行人:チプリアニ・アルド

恩人の皆様

マダガスカルの
未来のために



二月から四月にかけて、六年に一度開かれるサレジオ会総会がローマで行われました。世界各地から集った会員の中にマダガスカル人のビンセンテ神父様がいました。彼はマダガスカルのストリートチルドレンのために働いていることを分かち合ってくれました。政情不安と経済の停滞が人々に深刻な影響を及ぼしており、今、子どもたちのため、教育に力を入れなければならないと力説し支援を訴えました。DBKとして、マダガスカルのサレジオ会によるこのプロジェクトを支援したいと思えます。

子どもたちの未来のために訴える神父様の話を紹介しましょう。

「マダガスカル共和国は、アフリカの東側、インド洋に浮かぶ島国、長さ約一五七〇km、最大幅約五八〇kmと、世界第四位の大きさの島。首都はアンタナナリボ。マレー系のマダガスカル語と共に、かつてフランスの植民地だったことからフランス語も公用語となっています。人口は二二二九万人。東南アジア、インド、アフリカなどの文化の融合する自然豊かな国。」

「マダガスカル社会・経済の状況は、特に二〇〇二年と二〇〇九年の危機の後、年々悪化しています。それは子どもや若者たちに大きな影響を与えています。国が直面する最も大きな問題の一つは質の良い教育の不足と人口の二十四％に及ぶ非識字率です。小学校に入学する千人の子どものうち三七〇人が一年目で学校に行かなくなり、五年制の小学校教育を修了するのはたったの一二五人、そのうち中学に進学するのはわ



ずか三十人。教育の危機的状況は、不安定な社会情勢の主な原因の一つだと言えるのです。

そのためサレジオ会は、多くの更生、社会復帰のプロジェクトを通してマダガスカルの子どもたちを助けています。現在、取り組みもうとしているプロジェクトは、ストリートチルドレンの更生を目指すもので、家族や地域共同体を助けることによって、子どもを守る環境を作ろうとしています。「ノートルダム・ドン・ボスコ」センターは子どもたちを助け、教育活動を通して子どもの人権を守るために闘います。

私たちはまず、子どもたちに出会いに行き、子どもたちの置かれた環境、すなわち通りで、更生のための活動に参加するよう招きます。ゲームや遊びをはじめ、健康・衛生・法律や社会のことについての基礎的知識のカウンセリングや情報提供、子どもたちの心理的発達をはかります。



人生を変えたい、センターのコースを受けたいと望む子どもには、ボランティア・グループを通して、一人ひとりの年齢や必要に応じた教育のプログラムが用意されます。

安全に暮らせる場を必要とする十三歳から十六歳までの子どもたちのため、ノートルダム・ドン・ボスコは受け入れの場を用意し、社会復帰のためのプログラムを提供します。一人ひとりの必要に応え、現実の社会的疎外を乗り越えるために、可能なあらゆる方法を探り入れます。」

千人の子どもを対象とするこのプログラムにかかる費用は全体で約一七〇〇万円（子ども一人当たり一七〇〇〇円）。その半分以上は日本から支援したいと思います（残り半分はイタリアのサレジオ会宣教事務局がまかさないです）。先日帰天した河合恒男神父（日本の学校教育に献身し、海外の貧しい子どもたちの教育も支援）のために頂いた香典も、このプロジェクトに役立たせることになりました。今回、皆様に支援をお願いするのは、残りの三〇〇万



円です。プロジェクトの経費には、子どもたちのリーダーとなるボランティアの報酬も含まれています（失業率の高い若者たちが、社会に役立つ活動を通していくらかの収入を得ることもなります）。ぜひ、ご協力くださるよう、よろしく願い致します。

皆様の支援により、世界各地の多くの子ども・若者が教育を受ける機会を与えられ、成長し、夢を見ることのできる環境を見いだしています。皆様お一人おひとりの温かい心遣いに、深く感謝申し上げます。

なお、十月下旬に管区長職を、新管区長ロピアナ・アキレ神父に引き継ぐことになりました。これまでも皆様の惜しみない支援にいつも驚かされたことを思い起こし、感謝に満たされます。新しい管区長のためにも、同様のお祈りとご支援をよろしくお願い致します。

代表 チプリアニ・アルド神父
二〇一四年七月十六日

ソロモン諸島 テテレ ドン・ボスコ訓練校から

ドン・ボスコ農業訓練校の生徒たちが感謝の思いを語ってくれました。

ワカリ「もし、ドン・ボスコ学校がソロモンに来なければ、僕は今も村にいて 祈りも音楽も野菜作りをすることも出来なかったと思います。そう思うと、ドン・ボスコ学校がソロモンに来てくれてありがたいな。」

ジャー「女の子は学校に行く必要はないと親に言われましたが、ドン・ボスコの神父様に誘われてドン・ボスコの学校に来ました。初めてミシンを見ました。初め



てミシンに触りました。生まれて初めて枕カバーを作りました。本当に嬉しかったです。親への恩返しに枕カバーを作ろうと考えました。」

デスモンド「僕は大麻依存症です。

それでもドン・ボスコの学校と一緒に仕事をしようと神父様に誘われて僕は生まれ変わった気分でした。でも、度々隠れて大麻を吸い、神父様に怒られました。学校を追い出されたこともありましたが、神父様はまた僕の村に来てくれて、僕を探して、ラストチャンスだと言ってくれました。ですから、今ここに居られるのです。将来は村に戻ってドン・ボスコのことを伝えたいと思います。こんな良い学校はなかなかソロモンにないですよ。ドン・ボスコ学校、サンキュー！」

カウニ「卒業する日を見るとワクワクしますよ。だって、ドン・ボスコ学校からブッシュ・ナイフ、スコップ、道具セットがもらえて、村で新しい生活を始めることができるから、超幸せですよ。僕の村にもドン・ボスコ

さて、サレジオ会日本管区が会員を派遣してから、今年で二十年目となります。人材不足のため現在はソロモンで働く日本の会員はいませんが、祈り、資金・物の援助を続けています。皆さんの支えによって地元の若者たちは 職業訓練と教育を受ける

の学校が欲しいです。ドン・ボスコを知らない人は損ですよ。」



二年間ドン・ボスコで学んだ生徒たちに卒業時、仕事の道具を与えます。彼らが新しい生活を始められるようにと願いながら……



ソロモン人にとってブッシュ・ナイフは生活必需品。これ1つで草を刈り、木を切り、果物を収穫する、何にでも使えるすぐれもの。



ドン・ボスコ訓練校の生徒たち

ミカエル・ラップ神父
二〇一四年七月十日

ことができます。
今年はドン・ボスコの学校から、教育用品、すなわち 机や椅子、農業用の道具などの支援の要請がありました。そこで「YUMI・FREN・SOLOMON」(ソロモンの友)のメンバーはこれらの物を集め、九月半ばにコンテナで送ることになりました。運搬費だけで約七十五万円もかかります。私たちはゼロから始めているため、どうか、皆さまのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

DBK協力者、 恩人の皆様

冬のボリビアから初夏の日本の皆様に、心からの感謝の意をお伝えします。皆様の貴重な援助金のおかげで、毎月三つの貧しい施設に食料品を届け続けています。

日本に一時帰国してボリビアについて話しますと、必ず「なぜ国や政府が貧しい人を助けないのですか」という質問を受けます。政府にお金がないということ自体、先進国ではなかなか想像できないことだと思えます。七月初めの新聞に、月給だけで家族を養えないと警察官たちが抗議デモを行ったことが報じられていました。ボリ



イエス幼子の保育園児と共に

ビアの公立学校長の月給も、二十年勤務の警察官の月給も二〇〇ドルほど。一家族平均六〜七人なので、一人一日約一ドルの生活、国際基準で貧困とされる水準です。サンタ・クルスの街のいたるところで物乞いをする人々の姿が見受けられます。車いすの人、目の不自由な人、農村部から来て家族ぐるみで物乞いをする人など。

ボリビアのサレジオ会は、貧しい子どもたちを助ける「プロジェクト・ドン・ボスコ」をはじめ、熱意をもってドン・ボスコの心で、恵まれない人々のための奉仕活動を行っています。

六月二日、私たちの教会近くのサンタ・クルス養護施設の設立



ドン・ボスコ養護施設の園児と共に(昼食時に撮影)

二十五周年が祝われました。スペインから来たカプチン会の神父様が開いた施設で、私たちいろいろな面で協力しあっていますが、皆様の援助により毎月お米を届けています。私も皆様を代表して恩人として招待され、支援への感謝状を拝受致しました。

いつの日か、皆様に直接、感謝の気持ちを伝えし、ボリビアでの小さな宣教体験を分かち合うことができればと願っています。

感謝と祈りをこめて。

ボリビア宣教師
倉橋輝信神父



貧しい地区に住む家族。笑顔で迎えてくれます

発展途上国援助・ドンボスコ基金

2013年度決算書

(2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	項目	金額
前年度繰越金	328,272	寄付金支出	19,323,700
寄付金収入	21,294,432	#内訳	
#内訳(意向先別)		フィリピン台風30号被災援助	5,675,500
1任意(DBKに委託)	4,474,550	ボリビア(\$56,311.09)	4,500,000
2ボリビア	4,589,716	南スーダン(車購入)	4,512,600
3南スーダン(車購入)	5,867,944	ソロモン	2,000,000
4南スーダン	571,141	東チモール(教育費、\$1万)	1,042,800
5フィリピン台風	5,385,937	アルゼンチン	300,000
6アルゼンチン	299,670	西アフリカ(教育費、1万ユーロ)	1,292,800
7ソロモン	105,474		
(任意のうちドンボスコチャリティーワールド より3,500,000円いただきました)		事務経費	222,132
受取利息収入	41	#内訳	
		送金手数料	54,232
		通信費	167,900
		合計	19,545,832
		次年度繰越金	2,076,913
収入の部合計	21,622,745	支出の部合計	21,622,745

注1)南スーダンには2014年4月15日に\$1万(¥1,031,000)送金しました。

DBK だより 第13号

2014年7月16日

発行人:チブリアニ・アルド
発行所:サレジオ管区本部
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12
Tel:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190
dbk-gia@donboscojp.org

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替 口座番号

00100-4-560725

加入者名

発展途上国援助・ドンボスコ基金

